

- 問1 古墳時代の日本列島では、海外から高度な技術や文化を持つ人々が移り住み、社会の発展に大きな影響を与えました。高温で焼く硬い灰色の土器である「須恵器」の技術を日本に伝えた、朝鮮半島などから移住してきた人々を何と呼びますか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 渡来人 2. 地頭 3. 遣隋使 4. 防人
- 問2 5世紀のヤマト王権の王たちが中国の皇帝に使節を送り、国内の支配権を認めさせていた時期の文化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 仏教の伝来にともない、大規模な寺院の建立とともに数多くの仏像が安置された。 2. 古墳の頂上や周囲に埴輪が並べられ、王の権威の高さや葬儀の様子を表現した。 3. 稲作の豊作を祈るための祭礼の道具として、青銅で作られた銅鐸が用いられた。 4. 魔除けや安産を願う呪術的な道具として、土偶が盛んに作られて集落の近くに置かれた。
- 問3 5世紀後半のヤマト王権の勢力範囲を知る手がかりとして、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌の銘文を持つ鉄刀があります。この鉄刀に記されている、当時の王権の中心人物を指す名称として正しいものはどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 卑弥呼 2. ワカタケル大王 3. 聖徳太子 4. 志賀島の金印の主
- 問4 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
1. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。 2. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。 3. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。 4. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。
- 問5 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している 2. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている 3. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している 4. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
- 問6 5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため 2. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため 3. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため 4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため
- 問7 古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
1. 土師器 2. 須恵器 3. 縄文土器 4. 弥生土器
- 問8 5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれているとされる遺物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 漢の皇帝から授けられたとされる金印 2. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀 3. 近畿地方で多く見つかった銅鐸 4. 装飾が施された石包丁
- 問9 古墳時代に築かれた、円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形状を持つ巨大な墓について、その名称と当時の状況を正しく述べたものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 名称は方墳であり、ヤマト王権が全国の土地を直接支配するために、各地の役所の目印として設置した。 2. 名称は前方後円墳であり、ヤマト王権の勢力が及んだ東北地方から九州地方にかけての広い範囲で見られる。 3. 名称は装飾古墳であり、ヤマト王権から独立した九州地方の豪族のみが、独自の文化を示すために築いた。 4. 名称は円墳であり、大和地方から移住した渡来人たちが、故郷の風景を再現するために全国に広めた。
- 問10 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌（きんそうがん）によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 卑弥呼 3. ワカタケル大王 4. 中大兄皇子
- 問11 3世紀ごろの中国大陸の情勢と、当時の日本との関わりについて述べた文として、内容が正しいもの一つを選びなさい。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 唐が周辺諸国を従える強大な帝国を築いており、日本からは律令制度を学ぶために遣唐使が送られた。 2. 隋が南北に分裂していた中国を統一した時期であり、聖徳太子が小野妹子を派遣して交流を深めた。 3. 秦の王が初めて中国を統一して始皇帝と名乗り、日本を含む周辺地域に大規模な軍隊を派遣した。 4. 魏・呉・蜀の三つの国が分立して争っており、邪馬台国の卑弥呼はそのうちの魏に使いを送った。
- 問12 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため 2. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため 3. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため 4. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため
- 問13 古墳時代、各地の有力者が巨大な墓を造りました。その中でも、上から見ると鍵穴のような独特の形（一方が四角形で、もう一方が円形）をした、日本独自の形式の古墳を何と呼びますか。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 装飾古墳 4. 方墳

答え合わせ・解説

問1	答え 1 渡来人	朝鮮半島や大陸から日本列島へ移り住んだ渡来人は、須恵器の製作技術のほか、鉄器の加工、養蚕、織物、漢字や儒教といった高度な技術や文化を伝えました。これらの技術はヤマト政権の勢力拡大や、当時の有力豪族の経済力の向上に大きく貢献しました。
問2	答え 2 古墳の頂上や周囲に埴輪が並べられ、王の権威の高さや葬儀の様子を表現した。	5世紀は「倭の五王」が中国の南朝へ使いを送り、政治的な地位を確立しようとした時代です。この時期の古墳には、円筒埴輪だけでなく、家、武器、人物などをかたどった形象埴輪が並べられ、葬られた者の権威や儀式の様子を示す役割を果たしていました。土偶は縄文時代、銅鐸は弥生時代、寺院建立は飛鳥時代以降の特徴であるため、混同に注意が必要です。
問3	答え 2 ワカタケル大王	江田船山古墳から出土した鉄刀に刻まれた「ワカタケル大王」は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、日本の『記紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。この名称が刻まれた遺物が、九州（江田船山古墳）と関東（稲荷山古墳）の両方から発見されたことは、広域な支配体制の確立を裏付ける歴史的な発見となりました。
問4	答え 4 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭器化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問5	答え 2 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問6	答え 2 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問7	答え 2 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。
問8	答え 2 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問9	答え 2 名称は前方後円墳であり、ヤマト王権の勢力が及んだ東北地方から九州地方にかけての広い範囲で見られる。	前方後円墳は、日本独自の古墳形式であり、その分布は北は東北地方から南は九州地方にまで及んでいます。これは、各地の豪族がヤマト王権を中心とする政治秩序に参加していたことを意味します。装飾古墳は内部に彩色や彫刻があるものを指し、円墳や方墳はより一般的な形状ですが、前方後円墳ほどの政治的象徴性は持ちません。また、古墳はあくまで豪族の墓であり、役所の目印ではありません。
問10	答え 3 ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。
問11	答え 4 魏・呉・蜀の三つの国が分立して争っており、邪馬台国の卑弥呼はそのうちの魏に使いを送った。	中国の歴史書『魏志』倭人伝には、3世紀の中国が魏・呉・蜀の三国に分かれて争っていたこと、そして日本の卑弥呼が魏の皇帝から称号を授かったことが記されています。他の選択肢にある秦による統一は紀元前3世紀、隋による統一は6世紀末、唐との交流は7世紀以降の出来事であり、時期が異なります。
問12	答え 2 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問13	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。